

仕事のやりがい

陶芸はやればやるほど狙っていた物が作れるようになり、作るのも速くなります。作品が思い描いたように焼き上がったときや、その作品をお客様が手に取ってくださったときにやりがいを感じます。

この仕事を始めたのは

物作りをする仕事をしたいと、陶芸を始めました。陶芸の専門学校に通い、窯元に就職。その後、陶芸家として独立しました。



とうげい 陶芸家

この仕事をめざす君へ

やりたい気持ちがあれば、学校に行ったり、弟子入りしたりしなくてもできる仕事です。頭で考えた物が形になる面白さ、形になった物を最後まで使うことが陶芸の魅力だと思います。

木本 紗綾香 さん

松江市出身 下関市在住歴2年

移住編 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

木と土のお店
 豊田町の田園風景が広がる中にたたく築150年の古民家。ここが、木本さんのお店「木と土Calm」です。木本さんは結婚を機に、下関で暮らし始めました。

チャレンジしたいこと
 お店には、夫の祐樹さんが作った温かみのある木製の家具や時計などと一緒に、木本さんが作った陶芸の作品が並んでいます。果物の形をした蓋付きの器や、丁寧な細工が施してある花瓶などが、独特の存在感を放ちます。

陶芸は、土を練って形を作ります。それを少し乾かして削り、窯を使って80℃の温度で素焼きをします。それだけでは水が漏れるので、釉薬という薬を塗って、さらに高温で焼く(1235℃)で焼いて完成します。

「釉薬は、さまざまな色や質感を表現できます。いつか木工を作ったときの切れ端を燃やして灰をとり、釉薬を作った土を使いたいです。この土地の土を使った新しい作品も作ってみたいですね。これからは作品を作り続けることが目標です」と楽しそうに話してくれました。

